

DIGITAL

DIVISIONS



本社 DX本部
〒108-8502 東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟
E-mail : ict_recruit@ml.obayashi.co.jp
<http://www.obayashi.co.jp>



建設DXで未来を創る

建設業は慢性的な人手不足、そして働き方改革への機運の高まりを背景にこれまでの仕事の進め方を見直すことが求められています。

特に近年は、BIMの普及やデジタルを前提とした業務プロセス変革、また、AI、IoT、ロボティクス技術の発展もあり、デジタル技術の活用に今まで以上の大きな期待が寄せられています。

我々は大林組の情報部門として最先端の技術を活用した“ものづくり”とスマートなワークスタイルを提案し続け、建設業のリーディングカンパニーとして未来を創造していきます。





Contents

05 DX History of OBAYASHI

07 情報部門の紹介

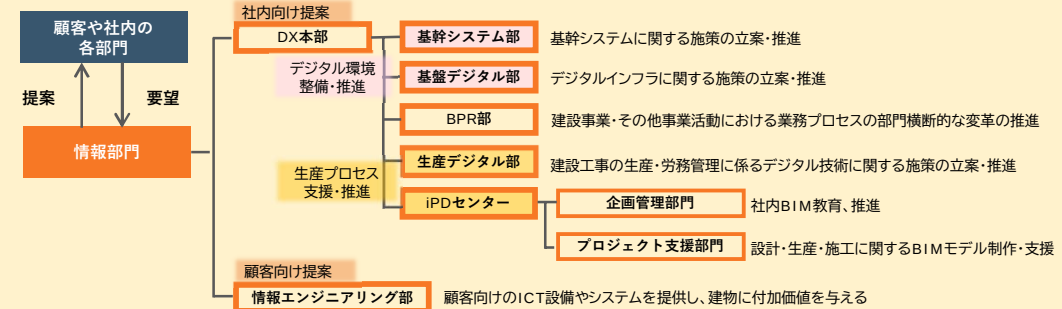
13 社員紹介

15 よくある質問 – FAQ –

DIGITAL History of OBAYASHI

大林組情報部門の役割

大林組情報部門は、多様化する社会や顧客のニーズに応えるため、**常に最先端の情報通信技術を幅広く探求**し、様々なシステム会社のソリューションやメーカー製品を組み合わせ、最適なシステムを構築しています。このため、顧客や社内各部門の要望を具現化するための**企画やプロジェクトマネジメント**を中心とする業務を行っています。このような点が、大林組のDX部門と情報システム会社との異なるポイントです。



東京本社に電子計算センターを設置

(情報ネットワーク部と情報ソリューション部の前身組織)

グローバルICT推進室を設置

ICTを重要な経営資源と捉え、国内外のグローバルな事業活動におけるICTの活用を推進
(IT戦略企画室、情報ソリューション部、情報ネットワーク部を統合)

情報エンジニアリング部を設置

顧客のニーズに合った先端ICTを提案し、建物に導入するサービスを提供

iPad3,000台導入

現場で施工管理を行う技術系職員を対象にタブレット端末3,000台を一斉導入

iPhoneを会社支給の携帯電話として標準化

標準の携帯電話をiPhoneに変更し、モバイルワークスタイルを推進

DX銘柄2023に選定



DX銘柄2023
Digital Transformation

デジタル推進室を設置

経営基盤のデジタル化、施工現場を含む生産活動及び営業活動のデジタル化を推進
(グローバルICT推進室、iPDセンターを統合)

Office365を導入

同業他社に先駆けてOffice365を導入し、クラウドサービスの利用を開始

BIM推進室をPDセンターへ改組

PDセンターをiPDセンターへ改組

BIMモデルの供給とマネージメント

IoT・AIを活用したビルマネジメントシステム、BIMを活用した建物情報プラットフォームを開発

IoT・AI技術を活用してオフィス環境を最適に管理する「WellnessBOX」や、BIMを中核にした建物情報の統合プラットフォーム「BIMWill」を開発

デジタル推進室をDX本部へ改編

1979

1995

2000

2001

2010

2011

2012

2013

2017

2019

2020

2022

2023

インターネットと電子メールの利用を開始

IT戦略企画室を設置

情報システムに関する施策の立案と推進を担当

BIM推進室を設置

BIMソフトの本格導入を開始。
Build Live Tokyo では最優秀賞を受賞 (Build Live Chiba 2012でも最優秀賞を受賞)

iPad版の配筋検査システムを自社開発

タブレットという新デバイスの普及を見越し、配筋検査業務用のアプリを自社で開発

DX本部



大林グループが目指すDXの将来像

大林グループの目指すDXは、その場限りでなく、近未来の社会環境と建設のありようを見据えた事業施策を策定し、デジタル深化の正道を辿るものでないといけないと考えています。つまり「デジタルありき」で成り立つ未来社会の業務フローをバックキャストで実現するものです。

そのためのデジタル戦略骨子は、収益の根幹を成す「生産DX」、生産DXを支える「全社DX（バックオフィスDX）」、そして全てのデジタル化とDXを担保する「情報セキュリティの強化」で構成されています。

生産DXは、具体的にはBPR（業務プロセス変革）とBIM生産基盤への完全移行による情報基盤の強化です。全社DXは、生産DXを支える屋台骨としての4本の柱「社内データの統合・活用」、「システムのスリム化」、「業務の自動化・省人化」および「デジタル人材の育成」からなっています。情報セキュリティの強化は、ゼロトラストセキュリティの構築と維持、およびサイバー攻撃等に対する継続的なセキュリティ対策です。

DX本部の働き方

DX本部での主な仕事は、建設現場や各部門などのニーズを的確に把握してシステム構想を取り纏め、技術力を持ったシステム開発会社やメーカーを選定して発注し、システムが完成した後に社内ユーザーに展開することです。理系・文系を問わず活躍しています。

ここで必要とされるのが、**プロジェクトマネージャー**としてのスキルです。工程や品質、費用の管理はもちろんですが、工程の上流からプロジェクトの方針を決定する「企画力」が求められます。またシステム開発では多くのステークホルダーが関わるため、それぞれの立場の意見を理解し調整する「コミュニケーション能力」も重要です。

また、日々革新が進む新しい技術やサービスについての知見を深め、「技術力」を高めることも必要です。そのため、セミナーや展示会、ワークショップに足を運ぶなど、積極的に情報収集に取り組むことも重要となります。さまざまな課題に対し、自らの知見やアイデアを基に最適なソリューションを積極的に提案することが求められます。

DX本部の各部紹介

基幹システム部

～ヒト・モノ・カネの経営資源を管理～

基幹システム部には3つの課があります。次世代基幹整備課は、更なるデータドリブン経営を実現する近未来のシステムの構築と推進を、データマネジメント課はデータプラットフォーム整備などデータ活用基盤の構築と推進を、基幹マネジメント課は、基幹システム開発および稼働環境に関するガバナンスの構築と推進を、それぞれ担っています。

基盤デジタル部

～システムとコミュニケーションの基盤～

基盤デジタル部には4つの課があります。基盤第一課、基盤第二課および基盤第三課は、Microsoft社製品、ストレージサービスなどの共通システムサービスの提供と活用推進、ネットワーク基盤の整備・運用管理、ICTデバイスやアプリの標準利用環境の整備・運用管理などをそれぞれ担っています。セキュリティ管理課は、全てのデジタル化とDXを担保する情報セキュリティの強化を担っています。

iPDセンター

～つくる・広める・ととのえる～

iPDセンターには制作第一部、制作第二部、制作第三部および技術管理部の4つの部があります。制作各部では、BIMモデルの実務部門への供給およびモデルのマネジメントを行っています。技術管理部では、モデリングルールの策定やBIM部品の整備、クラウドなどBIM利用環境の整備、BIM教育の実施や社内BIM情報公開サイトの運用・管理、各支店BIM担当者との情報交換などを行っています。



執務風景。対面・オンライン問わず、意見交換が活発に行われる環境です。

生産デジタル部

～生産プロセスを支援し、建設DXを推進～

生産デジタル部には2つの課があります。生産第一課は、現場の生産・労務に関するシステムのガバナンス構築・推進およびデジタルを活用した技術開発の推進を、生産第二課は技術系部門のデジタル変革支援およびCAD・BIM・CIM等技術系アプリ・サービスの利用支援を、それぞれ担っています。

BPR部

～抜本的な業務プロセス変革をリード～

BPR部は、10～20年後の会社のカタチを構想し、事業環境の変化に対する柔軟性を見え、現在より少ない人員でも事業活動を継続できる「新しい業務スタイル（＝業務の標準化、データ駆動の業務）」を実装します。その目標に向かって、私たちは、「生産性の向上」と共に「組織の最大化」をテーマに掲げ、各事業部門の業務プロセス変革を、デジタル技術のチカラを活用して推進しています。

本部長室・業務管理部

～DX本部のコーポレート部門～

DX本部のコーポレート業務を担う部署です。本部長室にはデジタル戦略企画課とデジタル教育課、業務管理部には総務課があります。当社はデジタル教育に力を入れており、同業大手の中では最初にデジタル教育課を立ち上げ、社員を5つの人材タイプに分類し、それぞれの人材に合わせた学習コンテンツを提供する学習フレームワークを構築しています。また、経済産業省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に賛同しています。



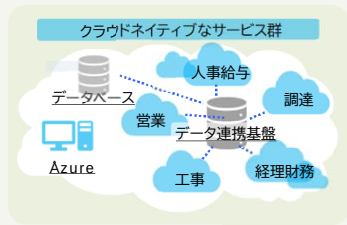
現在の取り組み・これからの取り組み

<次世代基幹システムの構築> (基幹システム部)

～データドリブン経営の未来を拓く～

基幹システムとは、企業や組織の中核的な業務を支えるシステム（財務会計システム、人事・給与システム、営業情報システムなど）のことです。

ビジネスプロセスの変化に柔軟に対応できるデータ構造への見直しや、クラウド環境への完全移行に着手しています。データガバナンスとデータ活用の更なる高度化を実現し、データドリブン経営の未来を拓きます。



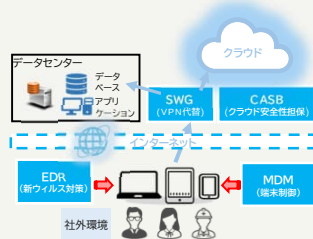
2030年度に目指す姿

<ゼロトラストセキュリティ> (基盤デジタル部)

～何も信用できない世の中～

リモートワークに代表される多様な働き方、クラウド環境の利用、多様化するデバイス、そしてサイバー攻撃の脅威の拡大等により、従来の境界型セキュリティ対策の限界が明らかになりました。

大林組は境界型から、情報資産にアクセスするものすべてで信用せずに安全性を検証する「ゼロトラストセキュリティ」への移行を2022年に実施しています。



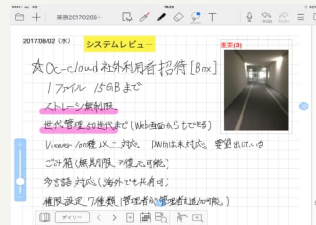
ゼロトラストセキュリティの展開

<eYACHO> (生産デジタル部)

～iPad一つで、手書きメモから資料作りまで～

大林組は業界内でもいち早くiPadを導入し、様々なアプリを開発してきました。その一つが「eYACHO」です。手書きのメモアプリとして開発された本アプリは、現場に必要な各種書類の作成に活用され、業務のペーパーレス化に貢献しています。

現在ではほぼ全ての現場で活用されています。DX本部ではさらに使いやすいアプリにするため、現場の声を集約し、機能の追加・改善を行っています。



(株)MetaMoJiと共同開発した「eYACHO」の画面

<ドローンの活用> (生産デジタル部)

～屋内ドローンによる施工管理～

現在、屋外だけでなくGPSの届かない屋内でも安全に飛行できるドローンの開発が進んでいます。当社は建設現場の安全巡視・進捗確認といった施工管理業務への活用を検討しています。

事務所にいながらドローン进行操作して点検業務を行ったり、決められた時間に自動で現場内巡視をしてくれる、といったことが当たり前になる日も近いです。



屋内用ドローンとドローンポート

<全従業員のデジタル人材化> (本部長室)

～データドリブンな教育の提供～

大林組は業界内で最初にデジタルに関する社内教育の専門部署を立ち上げました。当社グループが「ゼネコン」の枠にとらわれることなく成長を続け、事業環境の変化にシなやかに適応しながら、すべてのステークホルダーの期待に応える企業グループへと進化するために、全従業員のデジタルリテラシーの底上げを目指し、有用な学習コンテンツの提供を行っています。



デジタル教育のポータルサイト

<業務の自動化・省人化> (本部長室)

～従業員自身によるシステム開発～

IT部門ではない従業員が、ローコードツール等でシステムを開発する「市民開発」が活発になっています。社内教育はもちろんのこと、PowerPlatformによる開発は従業員同士が相互に教えあうコミュニティをオープンし、社内での活用を活性化しています。

自分自身でサービスを開発し、周りに発信していくことで、デジタルリテラシーの底上げと業務の自動化・省人化を実現しています。



Power Platform 従業員コミュニティ

<Smart BIM Standard> (IPDセンター)

～社内でのモデリングルールを一元化～

BIMモデルのモデリングルールは各業者によって異なり、業者間でのBIMの活用が困難でした。設計～施工までのBIM一貫利用に向けて、DX本部を中心にモデリングルールである「Smart BIM Standard」(通称:SBS)を作成しました。

SBSは2023年1月に一般公開されました。今後は社外へもSBSの考え方や内容を普及させることで、業界全体のBIM一貫利用を目指しています。

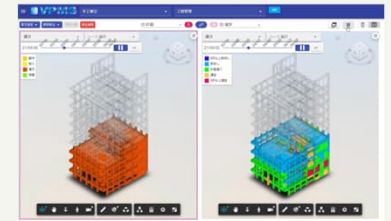


「Smart BIM Standard」のトップ画面

<BIMの活用> (IPDセンター)

～ビジュアル工程管理システム「プロミエ」～

BIMモデルは単なる3次元データではなく、1つ1つの部材に様々な情報を付与することができます。現在開発している「プロミエ」は、部材に日付を付与することで工事の予定・進捗の管理を効率化するwebアプリケーションです。工程管理や出来高資料の作成など、重要かつ時間のかかる業務を今までは紙とペンで行っていました。これらの業務をiPadだけで簡単・効率的に行えるようになります。



「プロミエ」の操作画面

IoT・AIをはじめとするテクノロジーの進化やBIMやクラウドといった情報プラットフォームの普及などにより、今や建設業においても先端デジタル技術の活用は不可欠でその可能性は無限大です。DX本部はこれからも次世代のデジタル技術を探知し続け、大林組グループの成長に必要なICTソリューションを提供していきます。



情報エンジニアリング部



デジタル技術導入全般をマネジメント

情報エンジニアリング部は、「建物整備とともに情報システムを構築したい」という顧客のニーズに応えるために設立されました。建物へのデジタル導入を検討している顧客に対し、専門知識を持つ当部が中心となって建物デジタル化の企画から導入までの

デジタル技術導入によって建物の価値を高め、顧客や建物利用者に便利で安全・安心な環境を提供することを目指すとともに、社会の高度化・多様化するニーズに対応した建物を提供することによって、本業である建設事業の競争力を向上させることを目指しています。

顧客ニーズ

施設整備に合わせ、情報システムを構築したい

情報エンジニアリング部

デジタル技術導入全般をトータルマネジメント

(顧客) 建物の価値向上
(大林組) 事業の競争力向上

情報エンジニアリング部の働き方

デジタル技術と建築双方の専門分野に精通する部署として、顧客のデジタルご担当者や設計・施工担当者との橋渡し役を担い、プロジェクトを主導的に推し進めます。顧客への提案からシステム導入時における工事事務所や、メーカーやシステム会社との調整まで、多くの関係者と齟齬なくコミュニケーションをとり、デジタル化のプロジェクトマネージャーの役割を担います。

また、テクノロジーが日進月歩で進化するICTに関する知識・技術を吸収することも重要です。展示会やワークショップに参加して知見を深め、技術開発にも積極的に取り組んで、新たに提案できる技術の開発も行っています。

ゼネコンとしての強み

「建物とデジタルの同時施工」、「マネジメント力」が大きな強みであり、デジタル導入を大林組が請け負うことで顧客に次のような付加価値をもたらします。

- ①窓口の一本化による顧客の負担軽減
- ②同時施工による全体工期の短縮
- ③建築と一体となったICTの提供

現在の取り組み

<トータルソリューション>

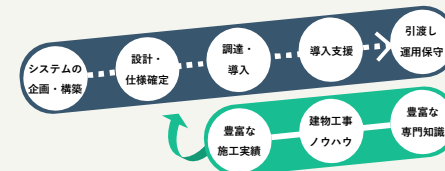
～企画から導入まで一貫したソリューションを提供～

情報エンジニアリング部では、プロジェクト初期段階から企画・設計・施工・運営段階に至るまで一貫して関わっています。豊富な実績・知識と、総合建設業で培ったマネジメント力でトータルソリューションを提供できることが大きな強みです。

<デジタル技術全般の導入>

～システムからインフラまでデジタル全般のソリューションを展開～

主に建物に付随するデジタル全般を手掛け、宿泊施設の客室制御システムや病院情報システム、工場の生産計画システムといった「情報システム」、大型LEDビジョンや総合演出システム、会議システムなどの「映像・音響システム」、ネットワークや電話などICTの基盤となる「デジタルインフラ設備」、セキュリティシステムやエネルギー管理システムなどの「ビルアプリケーション」の導入を行っています。



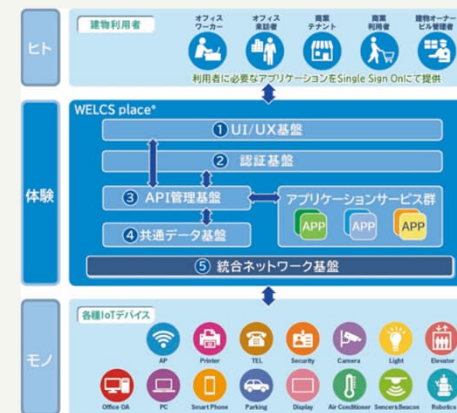
これからの取り組み

情報エンジニアリング部が取り組む施設は多岐にわたります。病院、教育施設、文化・スポーツ施設、商業施設、宿泊施設、オフィスビル、工場など幅広い施設を対象とし、その都度、お客様のニーズや建物環境を考慮した設計を行っています。様々な建物を扱う一方で、最近では建物に共通して、ビル利用者の課題解決にデジタルの力を使うことが求められるようになってきています。「高度なデジタル化に迅速かつ安全に対応できる建物」すなわち「スマートビル」のニーズが日に日に高まってきていると言えます。

大林組ではヒトとモノをつなぐ体験創造をコンセプトに、スマートビルプラットフォーム「WELCSplace」を開発し、ビル利用者に対し、利便性、快適性、安全性など様々な付加価値を提供しています。

建物と一体となりICTソリューションを検討・提案できるのが大林組の情報エンジニアリング部の強みです。今後も建設業界のリーディングカンパニーとして、デジタル化による、建物の価値向上を目指します。

WELCS place



スマートビルプラットフォーム
WELCS place®

Member & Career Step

大内 泰貴 Ouchi Taiki | 現場研修

1. 建築
2. 工学研究科 建築・都市科学専攻
3. 福岡
4. コンクリート工事
5. 現場は温かい人が多く、職人さんとの人間関係は想像以上に構築しやすかったです。
今は現場研修の最中ですが、その中でiPadが手放せないほど役に立つことを実感しました。
6. BIMによるデータ連携を施工性の向上やロボット等の無人化へ活用することが目標です。



小間 誠貴 Koma Seiki | 現場研修

1. 建築
2. 工学研究科 建築学専攻
3. 兵庫
4. 物流倉庫
5. 職人さんには綺麗な人が多かったです。
6. AIやMRを用いた技術を開発し、生産性向上と業務効率化を実現させることが目標です。
ICTを必要不可欠な存在にし、建設業界を変革したいと考えています。



古閑 勇祐 Koga Yusuke | 現場研修

1. 設備（電気）
2. 融合科学研究科 情報科学専攻
3. 大阪（設計）～沖縄（現場）
4. 小学校
5. 職人さんが優しいことです。
6. 社内用アプリのブラッシュアップやBIM機能の拡充に取り組みたいと考えています。



野口 傑史 Noguchi Takashi | DX本部IPDセンター

1. 建築
2. 工学研究科 建築・都市科学専攻
3. 千葉（現場）～東京（PDセンター）
4. BIM、ネットワーク、データベース
5. 資機材の整理整頓が行き届いていることです。
6. より効果的なBIM活用を行うことができるネットワーク環境の構築やデータ管理の仕組みづくりを突き詰めていきたいです。

1. 職種
 2. 出身学部 学科
 3. これまでの勤務地
 4. 担当する仕事のキーワード
 5. 現場で感じた良いギャップ
 6. 目標
 7. 業務内容およびやりがい
 8. 入社の動機
- ※年次・所属は2017年現在。5～8はいずれかに回答

板倉 崇理 Itakura Takamichi | DX本部IPDセンター

1. 建築
2. 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻
3. 大阪（現場）～大阪（PDセンター）～東京（PDセンター）
4. BIM、Programming
5. 建設に関する様々なデータを効果的に活用できる、いわば建設版データサイエンティストのような役割を担いたいです。
6. BIM部品の整備やBIMデータ連携手法の検証などを担当しています。様々な人と関わる機会があり、最新の技術で建設の実務を支えていけることが魅力です。
7. 「ものづくりをICTで支えたい」という思いから、大林組が持つ高い技術力に惹かれました。



井内 新也 Inouchi Shinya | 情報エンジニアリング部

1. 設備（電気）
2. 先進理工学研究科 電気情報生命専攻
3. 大阪（設計）～東京（現場）～東京（情報エンジニア）
4. 病院ICT設計、プロマネ
5. ICT設計のプロフェッショナルとして、事業性や使い勝手を最大限に向上させるソリューションを設計・導入できる技術者を目指しています。現在は、情報や建築への理解を深め、マネジメント力を向上すべく取り組んでいます。
6. 大規模なプロジェクトに主導的な立場で携わることができる点、多くの他分野の方々と関わる点に、他の企業には無い魅力を感じました。また、ジョブローテーションや語学教育制度など、社内教育の内容に共感を持ち入社を決めました。



伊東 未奈子 Ito Minako | DX本部

1. 設備（電気）
2. 理工学研究科 開放環境科学専攻
3. 東京（設計）～東京（現場）～東京（グローバルICT）
4. 労務管理、IoT・AI
5. 現場で使用するICTツールのマネジメントとIoT・AIに関する調査/研究を担当しています。社内全体の仕事効率化や生産性向上のため、いかにIoT・AIを活用するか、新しい技術やサービスをどう取り入れるか、日々考えています。
6. 歴史に裏付けられた高い技術力だけでなく、先進的な技術も積極的に取り入れていく前向きな姿勢に魅力を感じました。



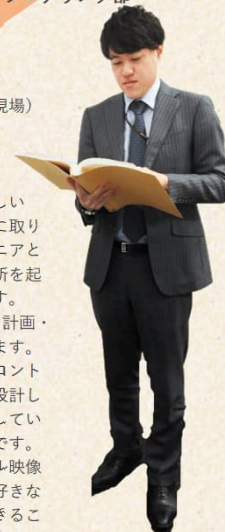
大杉 達也 Osugi Tatsuya | DX本部

1. 建築
2. 創造理工学研究科 建築学専攻
3. 東京（現場）～東京（PDセンター）～東京（グローバルICT）
4. HoloLens、iPadアプリ管理、Chatbot、ライセンス管理
5. 将来は建築とICTの面から技術開発や業務改善を主体的に提案、遂行することができます。
6. 「自分が建設業のワークスタイルを変えていっている」というスケールの大きさを実感でき、責任とやりがいを感じています。



草野 浩輝 Kusano Hiroki | 情報エンジニアリング部

1. 設備（電気）
2. システム理工学部 電気電子情報工学科
3. 東京（設計）～栃木（現場）～東京（情報エンジニア）～大阪（情報エンジニア）
4. 国際会議場、銀行
5. 進歩、入れ替わりの激しい情報分野の新技术を常に取り入れ、建設情報エンジニアとして、日本の建築に革新を起こしたいと考えています。
6. 建物へのICT設備導入の計画・設計を主に担当しています。さまざまなメーカーをコントロールし、自ら計画・設計したものを「かたち」にしているのが一番のやりがいです。また、趣味であるホール映像音響設備の導入など、好きなものを「かたち」にできることもやりがいの一つです。



FAQ

01 入社後のステップアップについて教えてください。

みなさんが学んできたことを活かすためにも、大林組の本業である建設事業を知る必要があります。

そのため、建築、設備(電気)職は、入社直後に施工管理をはじめとした建設事業の実務を経験し、その後、情報系部門(DX本部デジタル各部、DX本部iPDセンター、情報エンジニアリング部)で実務を経験しながらトレーニングを行います。

事務職は、入社後、情報系部門で実務を経験し、その後、工事事務所(現場事務)、本社・本支店における情報系以外の部門実務を経験しながらトレーニングを行います。

これらジョブローテーション終了後は、本人の適性や希望によるキャリアプランを基本とした配属になります。

職種	みなさんが学んできた 専攻	ジョブローテーション
建築職	建築工学系	・入社1年目で一級建築士資格取得のため通学 (資格取得可能な方のみ) ・施工管理(現場)の実務を経験 ・実務経験後、情報系部門の実務を経験
設備(電気)職	電気設備工学系、 電気工学・電子工学系、 情報通信工学系、 制御工学、システム工学系、 数理系、経営工学系	・入社後、設備設計と施工管理(現場)の実務を経験 ・実務経験後、情報系部門の実務を経験
事務職	情報系、数理系、文系全般	・入社後、情報系部門の実務を経験 (情報系実務経験後、本社・本支店・現場事務実務を経験する場合があります)

異なる情報系部門でキャリアを積むことには大きなメリットがあります。デジタル技術という共通軸を基に異なる部門の業務を経験することによって、幅広い視点と知見、および人の繋がりを得ることができます。大林組の情報系部門では、ひとつの部門に固定されることなく、多くの経験を重ねることができるキャリアプランを用意しています。

02 情報系部門の勤務地はどこですか？

情報系部門の勤務地は本社(品川)および大阪本店*ですが、大林組が関わるプロジェクトは国内外を問わないため、活躍するフィールドは全世界になります。

*DX本部デジタル各部は大阪本店に組織はなく本社(品川)のみ。

03 海外勤務のチャンスはありますか？

はい。大林組はグローバルな事業活動に積極的に取り組んでおり、そこでのデジタル活用・展開は欠かせません。技術開発においても、大林組は日本の建設会社として初めて米国シリコンバレーに研究開発拠点「シリコンバレー・ベンチャーズ&ラボラトリ」を開設し、米国のスタートアップ企業や研究機関と協業して新たな技術の研究開発を進めています。

このような、大林組のグローバル展開におけるデジタル技術に関わることで、情報系部門の担当者も海外出張や海外勤務のチャンスが大いに広がってきます。

また「海外留学制度」があり、海外の学校や研究機関、企業に留学してキャリアアップに生かすことができますので、是非チャレンジしてください。

04 必要な資格はありますか？

入社にあたって必要な資格はありませんが、情報系職員については入社後職種別に取得が奨励されている重点資格として、「一級建築士」や「1級建築施工管理技士」「建築設備士」等があります。

また、DX本部では「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」「応用情報技術者試験」の受験、取得に力を入れています。

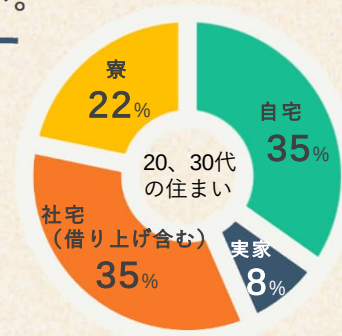
これらの資格取得時には、受験料、登録料のほか、特に重点資格に合格した場合は、会社から合格祝金や毎月の資格手当が支給されます。

05 寮・社宅について教えてください。

独身で、自宅が遠方のため通勤ができない方には、全国各地で独身寮を提供しています。

なお、寮には年齢制限(35歳)が設けられています。結婚している方には、自宅手当の支給、または社宅(借上げ社宅を含む)を提供しています。

このほか、住宅取得を主目的とした社内預金制度もあります。



06 女性の活躍について教えてください

大林組は、女性活躍をダイバーシティ＆インクルージョンの最初のステップとし、建設業を始め当社グループの事業に携わるすべての人の活躍に取り組んでいます。

2014年に大手建設会社初の女性所長が誕生したほか、ジャカルタの高速道路建設現場の女性所長は、海外土木プロジェクトにおける日本初の女性所長としての活躍が評価され、日経BP社が主催し、内閣府が後援する「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2017」を受賞しました。

「人を大切にする企業の実現」という基本理念のもと、グループ全社員のワークエンゲージメントの向上とウェルビーイングの実現をめざし、ダイバーシティ＆インクルージョンの推進に向けた取り組みを積極的に進めています。

社員のコメント～女性の働きやすさについて～

男女雇用機会均等法の改正前、まだ女性の採用が努力義務だった当時でも既に女性社員が多く働き、会社全体として女性の労働環境を良くしていく気風がありました。私が大林組への入社を希望した大きな理由のひとつです。

入社後も家庭環境の変化とともに社内制度を活用し、子育て期間中は労働時間短縮制度のおかげで仕事を続けることができました。子育てが落ち着いてくるとともに仕事の幅を広げ、仕事と家庭のバランスをコントロールしながらスキルアップ、キャリアアップを目指すことが特別なことではない自然な流れとして日々を送っています。

(情報エンジニアリング部 課長)



プロジェクトの中核メンバーとなって説明や作業指示を行っている

07 「建築」専攻でなくても大丈夫ですか？

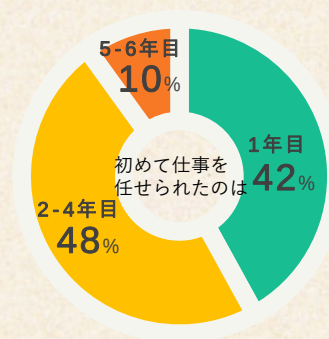
建築を専攻していなくても、ジョブローテーションで実際の建築現場を経験するため、その間に必要な知識は十分習得可能です。大林組では専攻を問わず、多くの社員が活躍しています。



学生時代に学んだことを一言で表すなら

08 仕事で困ったときはどうすればよいですか？

会社に入って数年間は初めて経験することも多く、分からないことも多いと思います。このため大林組では、みなさんが入社後に安心して働けるよう一定の期間「指導員」という先輩がついてサポートします。分からないことは、どんどん質問して吸収し、一人前の大林組職員を目指してください。



(メモ)
